



シーズ名

産業活動の国際的立地の研究

氏名・所属・役職

鈴木洋太郎・経営学研究科・教授

<概要>

産業立地論(国際産業立地研究)を専門にしており、「**多国籍企業の立地展開と国際分業**」、「**グローバル化の中での関西・大阪の産業発展**」、「**日本企業立地先としてのアジア**」などを研究テーマとしています。

関西・大阪(大阪大都市圏)には、大企業だけでなく多数の中小企業が事業拠点を立地しており、「大都市型の産業集積」が形成されておりますが、日本企業・関西企業の多くが進出するアジア新興国においても、タイのバンコク大都市圏やインドネシアのジャカルタ大都市圏など大都市圏に産業集積が急速に形成されてきています。アジア新興国の大都市圏は、急速な工業化や都市化に伴って、環境問題やエネルギー問題などが深刻化してきており、一方、大阪大都市圏は、少子・高齢化などにより経済成長が鈍化し、産業集積(特に中小製造企業の集積)も縮小する傾向があります。

大阪大都市圏など日本の大都市圏は、工業化や都市化に伴う諸課題に早くから直面した経験があり、課題解決のための技術やノウハウの蓄積もあります。こうした**日本・大阪の経験をアジアへ展開することで、アジア新興国の大都市圏が抱える課題解決に貢献するとともに、「グローバルな産業集積ネットワーク」を通じて、アジア新興国の成長力を日本へ取り込むことが促進できると考えています。**

ただし、日本・大阪の経験をアジアへ展開する際には、**アジア新興国の大都市圏それぞれの立地環境上の特性を十分に把握することも重要であり、そのための調査研究も不可欠**と言えるでしょう。

産業集積ネットワークのパートナーとして、大阪の経験をアジアへ展開



<アピールポイント>

30年以上にわたって研究をしており、その成果は『多国籍企業の立地と世界経済』(大明堂、1994年)、『産業立地のグローバル化』(大明堂、1999年)、『マネジメントの経済学』(ミネルヴァ書房、2003年)、『産業立地論』(原書房、2009年)、『国際産業立地論への招待』(新評論、2018年)などの著書にまとめている。

近畿経済産業局「近畿地域の中小・中堅企業海外展開に係る実態調査」アドバイザー(2012年度)、関西経済連合会「アジアビジネス研究会」アドバイザー(2013年度～2014年度)、日本機械工業連合会「TPPに関する近畿地域機械産業への影響調査専門部会」部会長(2014年度)、関西経済同友会・企業経営委員会アドバイザー(2016年度)など、社会的な活動を行ってきた実績もある。

<利用・用途・応用分野>

研究シーズを使った、講演・研究会や調査レポート作成など。

<関連する知的財産権>

なし

<関連するURL>

[https://research-soran17.osaka-cu.ac.jp/html/100000756\\_ja.html](https://research-soran17.osaka-cu.ac.jp/html/100000756_ja.html)

キーワード

産業立地、企業の海外進出、国際分業、地域産業発展、関西・大阪、アジア